

鳳凰山 石空川南沢

平成 24 年 10 月 6 日～8 日

メンバー：白土 (L)、熊崎 (記)

前夜、御座石温泉へ向かう小武川沿いの道を行き、鳳凰山登山口に車回収用の自転車をデポ、モジリ峠を越えて精進ヶ滝遊歩道入口の駐車場に到着。傍らの無人小屋にテントを張って泊まる。

10 月 6 日 (土) 晴れ

遊歩道入口の吊橋には通行止の看板があり、台風のため 5 箇所が崩壊しているようだ。沢身を行くと思いき、最初から沢靴を履いていくが、吊橋の踏板の一部が壊れている程度で、九段の滝まで大した崩壊地もなく普通に歩いていった。九段の滝は直登している記録があるが、上部はシャワーになりそうなので右岸の斜面を適当に巻いていく。明瞭な踏み跡があり、それを辿って落口に出ると、目の前に高さ 120m の北精進ヶ滝がどーんと立ちはだかる。水流右側のぐずぐずの浅いルンゼを登る。数十 m 登ったところで落口に向かって切れ込んだルンゼに取り付こうとするが、最近崩壊したのか、浮石が

ボロボロ崩れて危険なので、さらに浅いルンゼを滝の落口と同じ位の高さまで詰めて、傾斜が緩くなった辺りで獣道を辿って落口へ向かってトラバースする。小尾根を乗越すと歩いて沢床に降りられた。ナメ状の小滝をいくつか越えると北沢と南沢の合流。北沢は細長い淵の奥に 5m 滝、南沢は 10m のっぺりした滝を掛けている。大系では少し手前の右岸から大巻き、最近の記録では北沢の滝を登って左側の斜面を巻いて南沢に戻っている。後者が短く巻けそうだが、5m 滝はシャワーになるので、左岸側から明瞭な巻き道を辿る。滝上から急な斜面の草付を南沢までトラバースして 10m 滝の上に出る。すぐ 5m トイ状の滝があり、左の凹状から直登する。次の 10m 滝は両岸高い壁となっていて、登れそうにない。記録にしたがって右岸の急斜面から上流の滝もまとめて大きく巻くことにする。急な小尾根に取り付き、木登りを交えながらザイル 2P で登る。木の間からゴルジュ内の 20m 位の滝が見えた。傾斜が緩くなった所で、獣道を辿って水平方向にトラバース、浅い沢状を降りて沢に戻る。小滝を越え

ていくと、多段ナメ滝。この辺り魚影が走る。次の3段15m滝を左岸から巻くと、滝上には高さ5m位のとっぺんが尖がった大岩が鎮座する。すぐに10m位のスラブ滝が現れるが、全面ツルツルで右岸から巻く。次の6mCS滝を右側から簡単に越えると、また10m位のスラブ滝が現れる。上部の岩が抉れて、途中で水流が宙を飛んでいる。右岸側を巻く。左に屈曲して大きなCSの上にツルツルの滝が掛かっている、左岸ルンゼから巻く。その上で沢幅が広がって河原状となり、左右からいくつか支沢が合流する。少し早いがツエルトを張る。砂地があちこちにあって造成は簡単。薪もそこらじゅうにあって不自由はない。さすがに10月ともなると寒い、盛大な焚き火のおかげで暑いくらいだ。深夜、雨が降り出し、朝まで降り続いたが、ツエルトの上に張ったタープのお陰でほとんど濡れずに済んだ。

【タイム】遊歩道入口 6:15、北精進ヶ滝上 8:50、北沢出合 9:30、ゴルジュ上 11:35、広河原 13:10

10月7日（日）晴れ

しばらく、ナメ床や小滝を越えて

いくと、兩岸高い壁となった多段の15m滝が掛かる。記録では水流左を直登しているが、難しそう。右岸側手前に顕著なルンゼがあるが傾斜がきつい。しばらく逡巡するが、そのルンゼの右側の岩混じりの小尾根に取り付き、ザイル2P出して越える。小滝をいくつか越えていくと、二俣。両方とも10m程度の滝となっている。進むべき地蔵谷は右の滝だが、中段あたりが難しそうなので、右から巻く。滝上に出ると、すぐ30m滝が聳える。右岸から巻く。横方向に広がる岩壁帯の基部を辿って小尾根に出て、岩壁帯の上をトラバースして落口に出る。右岸側に覆いかぶさるような高い壁を見て、沢が右に曲がると、40m滝が現れる。これも直登できず、滝の右側に延びるルンゼを登る。目の前に岩壁が迫り、ルンゼが左に曲がったところで、左側の急斜面に取り付く。引っかけた倒木を騙しだまし登る。ザイル1P出す。登ると、急な小尾根となっていて、沢に戻るには左側の急なルンゼを横断しなければならない。ルンゼの向こう側には残置ロープがぶら下がっているが、ルンゼ内に一旦懸垂するの

は面倒なので、さらに小尾根を少し詰め、左側のルンゼが源頭となり岩場になった所で、ザイルを出して、上から垂れ下がった木の枝にぶら下がりトラバースし左の斜面に出る。本流を見下ろす所に出るが、沢床までかなりの高さがある。様子を見ながら、さらにトラバースしていくが、高さは変わらない。斜面の傾斜がきつくなり、これ以上、先に進めなくなった所で、大木を支点に懸垂することにする。幸い25mぎりぎり沢床に届いた。降りたところは本流と支流の二俣。本流には2段15m滝が掛かる。滝の左側の隠れたルンゼからCSを潜って登れそうだが、脆そうでシャワーとなるのでこども巻く。さっき懸垂で降りた右側の支流を詰める。左側の斜面が少し緩くなった所で本流との間の小尾根にトラバースすると、懸垂なしで沢に戻れる。連続する小滝を越えると、左上から右下に落ちる樋状の滝があり、樋状部分の上がツルツルで難しそうなので、左岸の小尾根に取り付き巻く。尾根上の残置シュリングを使って、15m程垂直の凹状部を懸垂で降りると、斜滝の急な草付斜面に出る。念のた

めそのまま5m位ザイルを出して斜滝の上に出る。その上の15m位の滝は右岸から巻く。垂直なクラックに水流を落とす5m滝も右岸から巻くが、その上には全面ツルツルの10m以上の滝が3つ程連なっていて、戻れそうにない。途中で沢は二俣に分かれているようで、一旦左俣に降り、間の小尾根に切戸状に入った岩溝を乗越し右俣に入る。小滝をいくつか越えていくと、傾斜の緩い20m位の滝が現れる。記録にある三俣の滝のようだが、水流は2本しか見えない。すぐ手前の左岸には、沢床から5m位上に広く平坦な場所がある。今日も少し早いので、この先、天場はなさそうなので、ここに泊まることにする。夜になるとかなり冷え込み、息が白い。盛大に焚き火をやって寒さを凌ぐ。

【タイム】 広河原 7:10、地藏谷出合 8:50、2段15m滝手前 11:45、三俣 14:15

10月8日(月) 晴れ

タープに薄く氷が張っている。三俣の滝は中俣の傾斜の緩い滝を登っていく。樋状の滝が現れ、快適に直登していける。すぐ左には平

行してレンゼが延びていてこれも登れるが、滝を登った方が面白い。15m 滝が現れる。白土氏リードで水流左の壁を中段まで上がる。その上は脆くてホールドがボロボロ崩れるので、落口に斜上する狭い草付ランペを登る。この滝を越えると滝はなくなり、ガレを詰めていく。途中で左の尾根に上がる。岩や石楠花が混じったりするが、適当にかわして登っていくと主稜線に出る。きれいなオベリスクが見えるも這松の藪漕ぎに難儀する。でも 30 分程度の我慢で、見晴らしのいいオベリスクに到着。北岳や甲斐駒ヶ岳がよく見える。賽の河原の無数のお地藏さんたちの前で、沢装備を解く。さすが連休の百名山、次から次へと人が登ってくる。紅葉を見ながら、鳳凰小屋、燕頭山を經由して長い登山道を下りた。

【タイム】三俣 7:25、15m 滝上 8:25、オベリスク 10:10、登山口 14:00



北精進ヶ滝



北沢出合 5m 滝



ゴルジュ入口 10m 滝



地藏谷出合 10m 滝



2段 15m 滝



30m 滝



最後の 15m 滝



40 滝



オベリスク